

Osaka Museum of History

大阪歴史博物館

友の会だより

平成16年12月・準備号 No.1



(平成16年11月28日撮影)

ごあいさつ

大阪歴史博物館は、難波宮遺跡の上に建ち、その大極殿跡と、大阪城を見渡す場所にあり、大阪の歴史を語る絶好の場所にあります。また西隣にはNHK大阪放送局があり、広場を共有しイベントも共催するなどして、皆さんに楽しんでもらっています。

そして展示には、私自身の思い出につながることが多いのです。発掘五十周年と聞きますが、私は山根徳太郎先生が難波宮跡の発掘を始められた頃を存じており、当時、通っていた住友修史室（現銀行本店4階）で、よく奥様お手製の弁当をつかわれたことなど、昨日のように思い出します。また町人天文学者、問重富ゆかりの羽岡平安・関西大学最高顧問は、旧制北野中学ハンドボール部の先輩でした。重ね重ねご縁があると思っています。

先日もロータリークラブの友人に、博物館は受付など感じが良いと褒めて貰いましたが、皆様のお力添えて館が発展するよう、今後ともどうかよろしく願いいたします。

大阪歴史博物館館長 脇田 修

友の会だより第1号をお届けできることになりました。昨年来会員により友の会を育てる、いわば自主運営に向けての1ステップであります。

昨年世話人会が発足し、「新大和川を歩く」シリーズの企画をすすめ、本年総会で幹事会として認めて頂き、同時になぜか私が会長に就くことになりました。よろしくお願いいたします。

もともと友の会は、大阪歴史博物館のサポーターであります。ざっしり詰った歴博の年間事業、およびその解説講座をみてまいりますと、それでもまだ展示や説明し尽せないものがあるように思えます。そういうこぼれ話的な内容、また、郷土大阪の周年話題などを拾って行くのも、友の会の役割ではないかと思う訳です。

友の会は財政的には専従が置けませんが、現時点では事務局にオンブされている実情です。しかし、数多い会員のなかには、豊かな経験、80歳時代の元気な余力をお持ちの方を見受けます。是非、ボランティアとしての知力、体力をお貸しいただきたいと願う次第であります。

大阪歴史博物館友の会会長 小村 幸一

早いものでこの11月、大阪歴史博物館は開館3周年を迎えました。おかげさまでこの間、およそ160万人もの多くの方々にご来館いただきました。平日は館内に遠足や修学旅行など小中学生のみなさんの元気な声が響き、休日には家族づれやグループでの来館が目立ちます。だんだんと「なにわ歴博」も存在感を増してきたようです。これからも活動を盛んにして、市民の皆さまに親しまれる博物館にしたいと思います。

さて、友の会は、受け身的にはではなくより積極的に博物館を利用し、歴史・文化への関心や文化財への認識を高めていただくために発足した歴史を愛好する方々の会です。本年、ようやく会長以下役員など運営の体制も固まり、いよいよ自主的な活動が始まろうとしています。その手始めが会報の発行であります。この会報が、友の会の楽しい情報交換の場となることを願っております。

大阪歴史博物館副館長 相蘇 一弘

生人形展によせて

清水 玉子

遊礼姿の聖観世音菩薩は衣装の色柄も復原修復されて、神々しいまでのお姿は見事でありました。大阪において、生人形師「松本貞三郎」が幕末から明治にかけて、世界を驚愕させる人形の展覧興行をされていたことも始めて知りました。私は時間をかけて二度観賞しました。このすばらしい生人形展を一人でも多くの人に見てほしい願いから、知り合いの方々にぜひ見に行くようおすすめしました。行かれた方からはすぐ驚きと喜びのご返事がかえってきました。

すすめていただければ行っていなかった、本当によかった。若い男性の一人は、小さい木彫りの孫悟空が気に入ったと違った嬉しい感想も聞かせていただきました。また他の男性からは、太古のわからない歴史を探究することも大事ですが、近世の歴史についても実物を展覧してくわしく学ばせることも必要ではないだろうかと貴重な意見もお聞きすることができました。

展覧されるまでには、永年の調査研究の積み重ね、緑の下のご苦労も大変であったと思いますが、歴史と文化を守る上で、芸術性の高い近世の文化遺産を展示することは今後も一層望まれるものと思います。(友の会幹事)

大和川付け替え300年シリーズに参加して

～万葉への想い～

阿部達雄

平成16年1月24日第1回から5月までの5回シリーズで行われた。人々が生活して行くのに日照りが続けば、雨乞いせねばならない。水は大切である。川は人々に恵みを与えてくれるが、しかした水害という苦しみを与える。河内の人々は水に苦しめられて来た。旧大和川は江戸時代でも元和から元禄までの60余年間に10数回も洪水をおこしている。

今米村の中甚長衛を中心に柏原の大和川と石川の合流点から西流させ、堺方面に流す案を幕府に嘆願し、50年もの長い検討後、元禄16年(1703)付け替えが決定された。宝永元年(1704)大和川が堺港へ付け替えられて、中河内の水害は殆どなくなったが、堺では予想していなかった、この新大和川による水害が発生するようになった。更に水害以上に大きい影響は南北朝以来、内外貿易の港町として反映して来た堺港が新大和川の運んで来る土砂によって急激に埋められて行き堺港が衰微して行くことになった。

古代には、大和から山を越え河内に来ると、水面いっぱいの太陽の反射する美しい景色で、万葉の歌に、「直越えの この道にてし おしてるや 難波の海と名付けけらしも(巻6 977)」

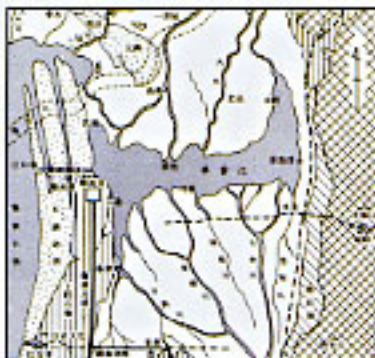
語源には諸説があるが、「おしてる」=太陽がキラキラと波静かな水面に輝いている状態を表現した、とする考えもある。

「難波」=日を迎える土地、太陽を仰ぐ場所、日の神を祀る庭の意味、とする考えもある。

難波津から大和川を通して大和へ舟が通じていたが、急流では舟に綱をつけて岸を歩きながら引いて大和へ行った。

万葉の歌に「おしてるや 難波の崎に 引き登る 赤のそは舟 そは舟に 綱取り掛け 引にづらひ ありなみすれど 言ひづらひ ありなみすれど ありなみ得ずぞ 言はれにし我が身(巻13 3300)」

西海道節度使藤原宇合の一行は駿馬行列りりしく、龍田道を通った時の、万葉の歌に「白雲の 龍田の山の 露霜に 色付く時に うち越えて 旅行く君は 五百重山 い行きさくみ 殿守の 筑紫に至り……」(巻6 971)と歌われており、一度秋にJR河内堅上駅から亀の瀬を通して王寺駅まで紅葉の龍田の道を歩いてみたか思っている。
♪古代のロマンを求めて……♪(友の会幹事)



古代の大和と難波宮
〔日本の時代史3から引用〕

友の会・大和川見学会の記録(平成16年)

- ① 1月24日「高井田から柏原を歩く」 ② 2月15日「服部川から二俣を歩く」 ③ 3月13日「玉串川から吉田川へ」
④ 4月18日「深野池と淀川」 ⑤ 5月16日「平野屋会所と鴻池新田会所」 ⑥ 10月24日「新大和川を歩く」
⑦ 11月13日「大和川河口と堺」

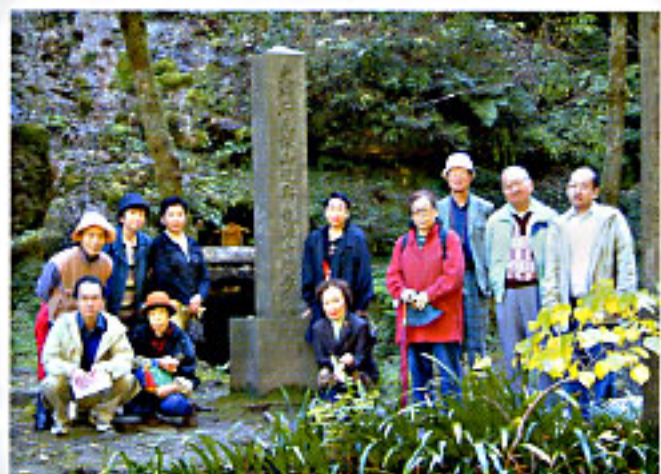
石見銀山見学旅行

八木 滋

昨年の秋、特別展「よみがえる銅-南蛮吹きと住友銅吹所」を開催したのを機に、友の会で中国山地の銀・銅山を1泊2日で訪れることになった。最初に訪れた吹屋(岡山県成羽町)は、ベンガラ町として知られ、伝統的建造物群保存地区にも指定されているが、バスが日に2本と個人ではなかなか行きにくいところ。近くの古岡銅山は住友家も一時経営に関わった。坑道内の見学もできる。2日目は、まず石見銀山(鳥根県大田市)近くの三瓶山埋没林公園へ。縄文時代に三瓶山の噴火により埋没した巨木は正巻であった。

石見銀山は世界遺産を目指すだけあって整備が行き届いていた。銀山資料館で学芸員のわかりやすい解説を聞き、銀山町を観光ボランティアの方の案内で歩く。町の奥には龍源寺開歩(坑道)がある。狭い坑道の中を歩いて、岩を削る整の痕を見ると、当時の鉱山で働いていた人々の苦勞が偲ばれる。

秋晴れに恵まれ、きれいな景色も堪能でき、貴重な体験の2日間となった。(博物館学芸員)



石見銀山にて

バス旅行「西播磨 鉄の里と古民家を訪ねて」

豆谷 浩之

今年10月2日土曜日に行った友の会バス旅行には、47人の会員が参加しました。博物館からは内藤学芸員と事務局の豆谷が同行しました。当日は朝方に雨が降り、天候が心配されましたが、旅行の最中は好天に恵まれ幸いでした。

最初の見学先は兵庫県安富町にある「千年家」です。この建物は、室町時代頃に建てられたと言われる国内最古級の民家建築だそうです。「千年」はいささかオーバーな表現ながら、500年近く前の古民家が残っていることに、参加者みな驚いていました。

午後には兵庫県千種町の「天見屋たたら公園」を見学しました。現地では郷土史家の鳥羽弘毅さんと千種町教育委員会の小原壽さんのお世話になりました。実は出発前日に、大雨のあとで川が増水しているため今回の見学の目玉である鉄穴流し遺構の見学が難しいとの連絡を受けており、バスの車中で参加者の方々にもお伝えしていました。ところが現地に着いてみると、「ハシゴを渡して橋がわりにすれば、遺跡の見学ができるので用意している」とのこと。これはうれしい「予定外」でしたので、ご好意に甘えることにしました。おっかなびっくり川を渡ると、向こうには長大な鉄穴流しの遺構が待ち受けていました。

見学内容が充実していた分、予定時間を1時間以上遅れて現地を出発することになり、新大阪駅に戻ったのは夜の7時になってしまいましたが、参加者の方々は満足してお帰り頂けたものと思います。(博物館学芸員・友の会事務局)



ハシゴで川を渡る



鉄穴流し場の遺構

友の会 これからの行事予定

1月23日(日) 大和川付け替え300年シリーズ⑨「堺市立博物館企画展の見学」

2月(日程未定) 「古代史講座—遣唐使と「日本」号について」(仮題)

3月(日程未定) 「春の見学旅行—近江八幡を訪ねる」

※詳しい内容、申込み方法などは、おつてご案内します。

編集後記

友の会発足から3年、ようやく会報をお届けすることができました。会誌の愛称が決まってから本格的なスタートと考え、今回は準備号としました。今号は幹事会で誌面を考えましたが、これからは会員の方々のご意見を取り入れて、会員相互の情報交換の場として機能していければと思います。これからもご協力をよろしくお願いいたします。(まめ)

会誌の愛称を募集します

友の会会報を会員の方々に親しみを持っていただけるよう、会員のご意見をもとに会誌の愛称を決めたいと考えています。

詳しくは別紙の案内をご覧ください。